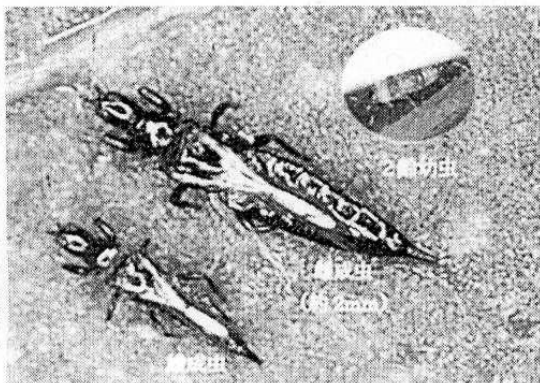


農業技術 プリズム

促成イチゴでは、アザミウマ類による果実への被害が4月ご



アカメガシワクダアザミウマ (石原産業㈱提供) 一部加工してあります

ろから増加していきませんが、薬剤防除だけでは完全に防除できない場面が認められます。その

促成イチゴ害虫対策 新規天敵導入で 果実被害半分に

ザミウマ剤の有効性について検討しています。

アカメガシワクダアザミウマは、害虫のアザミウマ類を捕食しますが、花粉でも増殖できるため、アザミウマ類が認められない状況で放飼しても、放飼後に発生したアザミウマ類に対する防除効果が期待できます。

今までの研究成果により、アカメガシワクダアザミウマを2月下旬および3月上旬に10匹当たりそれぞれ1万5000匹放飼すると、花と幼果のアザミウマ類密度を抑制し、果実被害を5月中旬まで無放飼の半分程度に低減できることが明らかになりました。

しかし、本天敵だけでは効果不足となる可能性もあり、現場で利用しやすい技術となるよう、薬剤散布や防虫ネットとの組み合わせさせた試験を進めていきます。

ため、薬剤だけに頼らない防除技術の確立が求められており、当センターでは現在、新規天敵資材であるアカメガシワクダア

(県農林技術開発センター 植松綾子)